

第72期 年次報告書

平成29年4月1日 ▶ 平成30年3月31日



イサム 塗料株式会社



取締役社長

古川 雅一

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策を背景に、企業収益や雇用・所得環境の改善、設備投資に回復傾向が見られるものの、米国政権の政策動向や貿易摩擦、世界的な地政学的リスクの高まり等の懸念により、原材料価格は上昇傾向となり、株価や為替の方向性が定まらず、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響が懸念される状況が続いております。

このような環境の下、当社グループは、自動車補修用市場でのシェア拡大を図るため、顧客ニーズに沿った環境対応型塗料や高機能性塗料で販路拡大を図るとともに、大型車両分野や工業用分野などの新規市場開拓や建築用塗料の受注増加に向けた積極的な営業活動を展開いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は、80億27百万円（前年同期比0.4%増加）となりました。利益面につきましては、製品の統廃合や総原価低減に取り組んだものの、原材料価格、物流コスト等の上昇により、営業利益は7億56百万円（前年同期比11.1%減少）、経常利益は9億39百万円（前年同期比8.9%減少）、親会社株主に帰属する当期純利益は6億21百万円（前年同期比10.2%の減少）となりました。

分野別の販売状況は、自動車補修用塗料分野では、環境対応型製品として、主力の低VOCベースコート「アクロベース」やハイソリッドクリヤー「アクセルクリヤー」シリーズで市場占有率の向上を図るとともに、環境対応への要請が強いユーザーを中心に特化則対応でPRTR法届出対象外の1液ベースコート「ハイアートNext」で新規ユーザーの獲得に努めました。合わせて、水性1液ベースコート塗料「アクアスDRY」では主力ユーザーへの普及促進を行いました。また、大型車両分野・各種工業用分野を中心に2液ウレタン樹脂塗料「ハイアートCBエコ」で新規市場でのユーザー獲得に注力し、堅調に推移いたしました。さらに、調色作業を標準化・システム化した調色機「彩選短スマート」の販

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループの第72期の事業の概況につきまして、次のとおりご報告申し上げます。

売を促進し、ユーザーの作業効率改善や若年者の技術教育に大きく貢献いたしました。

建築用塗料分野におきましては、主力の「ネオシリカ」シリーズに加え、JISA6021取得の外壁用塗膜防水材「アトロンエラストマー」、内装用光触媒塗料「エアフレッシュ」など、各種用途に特化した製品を展開いたしました。また、タイル床面の滑り止めシステム「スキッドガードAD」では、水性タイプとして「スキッドガードAQUA」の販売促進に取り組みました。「エアフレッシュ」「スキッドガード」シリーズは一般消費者への認知活動として、幼稚園等へのボランティア塗装の協賛、YouTubeでの啓蒙動画の配信等を行い、新たな市場開拓に継続して取り組んでおります。

工業用塗料につきましては、ユーザーの環境重視志向を背景に「ハイアートCBエコ」の拡販に注力するとともに、従来の水性塗料と比較して乾燥性・光沢を大幅に向上させた1液水性アクリル樹脂塗料「アクアシャインGA」を発売し、引き続き個々のユーザーに対応して積極的な個別営業活動に取り組ましました。

エアゾール分野におきましても、2石化による環境対応型製品の充実を図り、エアゾール製品の拡販に取り組んでまいりました結果、工業用向け補修用スプレー「エアラッカーエコ」が堅調に推移したほか、2液内部混合型エアースプレー「エアウレタン」、1液カラークリヤー「キャンディーカラー」の新色の追加により、DIY分野での需要が増加いたしました。

また、企業イメージの向上のため、ホームページのタイムリーな更新と合わせて、BtoB、BtoCへのアフターフォロー強化策として「YouTube」に公式チャンネルを開設し、広く消費者に製品をPRするとともに、塗装マニュアルをビジュアル化してサービス向上・顧客獲得に努めております。

当社グループは、自動車補修用塗料および建築用塗料はともにメンテナンス分野に特化しております。また、工業用塗料はユーザー個別対応により、積極的な営業活動を推進するとともに、全社員が環境への問題を最優先課題として取り組んでおります。併せて、顧客のみならず社会的に受け入れられる塗料・塗装システムの開発も進めております。

現在、塗料業界におきましては、環境関連法(大気汚染防止法、水質汚濁防止法、土壌汚染防止法)や、PRTR法などさまざまな法的規制の適用を受けております。このため、当社グループは、社会や業界を取り巻く法律や規制の施行に積極的に取り組んでおり、今後もなお一層、環境・化学物質関連の法規制対応の取り組みを強化してまいります。また、製品化におきましては、これらをクリアした環境対応型製品を主力とし、新製品・新システムの開発に注力し、塗装作業従事者の健康維持と地球環境保護を考慮した水性塗料の製品力向上に努めてまいります。

国内の塗料需要が停滞している状況においては、製品開発力を強化し、顧客起点の製品開発を推進することや、新たな市場を創造することで顧客の支持を得られるような営業活動により、市場でのシェア拡大に取り組んでまいります。

今後の見通しにつきましては、政府の経済政策や日銀の金融緩和を背景に国内の景気は回復基調にはありますが、米国、欧州を始めとする各国政府の経済政策が、株価・為替・原材料価格等に与える影響が懸念されます。また、海外情勢に関わらず、塗料業界におきましては、企業間競争はますます激しくなることが予想されます。このような状況の中、当社グループは、「お客様に一番近いメーカーであり続けよう」という経営ビジョンを掲げ、全社員一丸となって次のとおり取り組んでまいります。

① 人材の育成

「お客様に一番近いメーカーであり続けよう」という経営ビジョンを掲げる当社グループにとって、顧客の声に耳を傾け、顧客起点の製品開発を推進するための人材育成は最重要課題の一つと位置づけております。人材育成については、全従業員を対象として社員教育制度を整備し、従業員のモチベーションの向上やスキルアップに取り組んでおります。

また、全社的な労務管理を行うとともに、「働き方改革」やメンタルヘルス対策を推進し、より良い労働環境の整備、運用に努めてまいります。

② 高品質、安全・安心な製品の安定供給

当社グループは「環境方針」を定め、社会や業界を取り巻く法律や規制への対応に積極的に取り組むとともに、大規模な事故・災害等の発生に備えて、事業継続計画(BCP)を策定し、社員教育や災害訓練等によりBCPの周知徹底および実効性の向上を図っております。

一方、経営環境に大きな影響を及ぼす、物流コストや原材料の価格と安定的な調達も大きな課題ととらえております。

③ 顧客ニーズに沿った製品開発と新しいマーケットの開拓

当社グループは自動車補修用塗料を主力としておりますが、自動車業界では、衝突安全装置の普及や自動運転装置の開発・標準化に伴い、自動車補修用塗料の市場は縮小傾向であります。このような状況の中、自動車補修用分野では、より一層の製品開発と新規開拓の推進により、シェアの拡大を図ります。また、大型車両用分野・各種工業用分野など新しいマーケットの獲得を目的に、提案と取り組みを強化し、収益の向上に繋げてまいります。

さらに、ソフト面の強化としまして、「YouTube」の公式チャンネルを活用してBtoB、BtoCへ製品をPRし、啓蒙・塗装動画サービスの発信を新たな市場向けに実施してまいります。

④ 生産性の向上

経営資源を最適活用し、組織・業務・生産活動の効率化ならびに集約化に努めてまいります。具体的には、管理業務を本社へ、生産・受注業務を滋賀工場へ集中化し、トータルコストの低減・生産性の向上を進めるとともに、情報システムを強化して全社的な業務の効率化を推進してまいります。さらに、滋賀工場における生産ラインにおいて、費用対効果に配慮しつつ、生産設備の更新、合理化投資を実行し、生産力・収益力の向上に繋げてまいります。

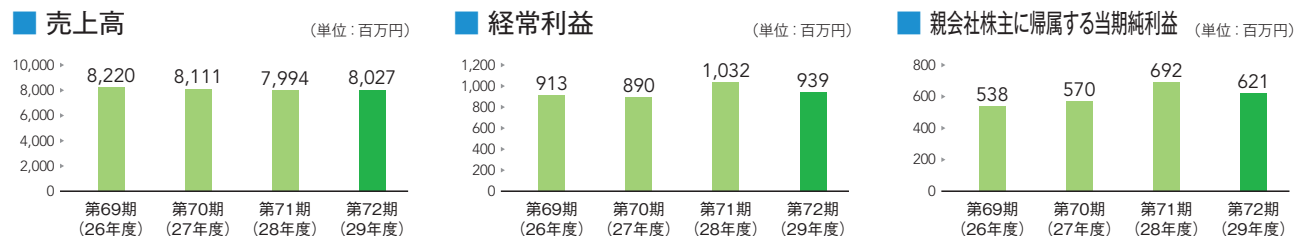
⑤ グループ経営における社会的責任(CSR)

当社グループの経営につきましては、社会的責任を果たすために、環境保全に積極的に取り組み、適切な企業情報の開示やコンプライアンスを一層推進するため、コーポレート・ガバナンス体制の強化および内部統制の充実に全力を投入いたします。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年6月

業績ハイライト



連結貸借対照表

(単位：千円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|--------------|--------------|--------------|
| | 平成30年3月31日現在 | 平成29年3月31日現在 |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 9,441,031 | 9,226,883 |
| 固定資産 | 8,581,216 | 7,962,340 |
| 有形固定資産 | 2,682,321 | 2,609,315 |
| 無形固定資産 | 25,842 | 22,792 |
| 投資その他の資産 | 5,873,053 | 5,330,233 |
| 資産合計 | 18,022,247 | 17,189,223 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 2,500,648 | 2,213,533 |
| 固定負債 | 1,032,901 | 1,021,957 |
| 負債合計 | 3,533,549 | 3,235,490 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 13,837,930 | 13,333,345 |
| 資本金 | 1,290,400 | 1,290,400 |
| 資本剰余金 | 1,210,130 | 1,209,925 |
| 利益剰余金 | 12,317,779 | 11,810,772 |
| 自己株式 | △ 980,379 | △ 977,752 |
| その他の包括利益累計額 | 297,480 | 275,717 |
| その他有価証券評価差額金 | 297,480 | 275,717 |
| 非支配株主持分 | 353,288 | 344,671 |
| 純資産合計 | 14,488,698 | 13,953,733 |
| 負債純資産合計 | 18,022,247 | 17,189,223 |

連結損益計算書

(単位：千円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|-----------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで | 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで |
| 売上高 | 8,026,984 | 7,994,322 |
| 売上原価 | 5,444,251 | 5,337,429 |
| 売上総利益 | 2,582,733 | 2,656,893 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,827,114 | 1,806,956 |
| 営業利益 | 755,619 | 849,937 |
| 営業外収益 | 193,023 | 194,504 |
| 営業外費用 | 9,251 | 12,928 |
| 経常利益 | 939,391 | 1,031,513 |
| 特別利益 | — | 735 |
| 特別損失 | 15,066 | 8,347 |
| 税金等調整前当期純利益 | 924,325 | 1,023,901 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 292,431 | 320,841 |
| 法人税等調整額 | △ 1,740 | △ 3,653 |
| 法人税等合計 | 290,691 | 317,188 |
| 当期純利益 | 633,634 | 706,713 |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 | 12,175 | 14,700 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 621,459 | 692,013 |

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|---------------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで | 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,051,663 | 858,362 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 34,143 | △ 653,917 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 132,861 | △ 401,838 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 884,659 | △ 197,393 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,857,162 | 2,054,555 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 2,741,821 | 1,857,162 |

貸借対照表

(単位：千円)

| 科 目 | 当 期 | 前 期 |
|--------------|--------------|--------------|
| | 平成30年3月31日現在 | 平成29年3月31日現在 |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 8,056,315 | 7,806,708 |
| 固定資産 | 7,914,602 | 7,448,939 |
| 有形固定資産 | 1,972,131 | 1,882,547 |
| 無形固定資産 | 24,306 | 20,755 |
| 投資その他の資産 | 5,918,165 | 5,545,637 |
| 資産合計 | 15,970,917 | 15,255,647 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 2,492,060 | 2,207,653 |
| 固定負債 | 859,383 | 844,540 |
| 負債合計 | 3,351,443 | 3,052,193 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 12,386,497 | 11,986,807 |
| 資本金 | 1,290,400 | 1,290,400 |
| 資本剰余金 | 1,209,925 | 1,209,925 |
| 利益剰余金 | 10,823,827 | 10,421,510 |
| 自己株式 | △ 937,655 | △ 935,028 |
| 評価・換算差額等 | 232,977 | 216,647 |
| その他有価証券評価差額金 | 232,977 | 216,647 |
| 純資産合計 | 12,619,474 | 12,203,454 |
| 負債純資産合計 | 15,970,917 | 15,255,647 |

損益計算書

(単位：千円)

| 科 目 | 当 期 | 前 期 |
|--------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | 平成29年4月 1 日から 平成30年3月31日まで | 平成28年4月 1 日から 平成29年3月31日まで |
| 売上高 | 7,393,884 | 7,406,921 |
| 売上原価 | 5,146,806 | 5,092,177 |
| 売上総利益 | 2,247,078 | 2,314,744 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,666,894 | 1,641,020 |
| 営業利益 | 580,184 | 673,724 |
| 営業外収益 | 199,039 | 198,489 |
| 営業外費用 | 9,368 | 11,388 |
| 経常利益 | 769,855 | 860,825 |
| 特別利益 | — | 735 |
| 特別損失 | 15,066 | 8,347 |
| 税引前当期純利益 | 754,789 | 853,213 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 237,331 | 260,762 |
| 法人税等調整額 | 689 | 244 |
| 法人税等合計 | 238,020 | 261,006 |
| 当期純利益 | 516,769 | 592,207 |

環境対応型車両用塗料と調色管理測色システム

作業環境や従業員の安全確保と次世代の人材確保・育成が重要となる自動車補修業界において水性塗料AXUZ DRYの導入が増加、働く車の需要増の波に乗り、大型車両用のハイアートCBエコの導入が増加しています。また、AXUZ DRYやハイアートCBエコに対応できる“誰でも・簡単に・素早く”できる調色管理測色システム「彩選短スマート」は時代にマッチした提案を実現し、需要増加に大きく寄与しています。また、自動車補修分野においては、アフターフォロー充実に向け、各種標準塗装仕様書、動画マニュアル配信によりどこにも負けないアフターフォローを展開しております。



「環境」を一番に考えた工業向け塗装システム “アクアシャインGA エコペイントシステム”

「アクアシャインGA エコペイントシステム」は環境を一番に考えた工業向け塗装システムです。塗料業界では品質はもちろん塗装作業への負担の少ない環境に配慮した塗料ニーズが高まっています。アクアシャインGAは工業用水性塗料であり、各種法規制にも対応しております。各素材への適用はもちろん、下塗り・関連品に至るトータルでの塗装システムとして工業用分野へのご提案に取り組んでおります。



“YouTubeイサム塗料(株)公式チャンネル”

当社製品の新しいPR手法として動画を活用した情報発信に取り組んでいます。スマートフォンやタブレット等の普及により手軽に情報を入手できる時代となり、動画によるわかりやすい情報発信がユーザーから求められています。イサム塗料では車両・工業・建築・エアゾールの各分野で製品情報や各マニュアルの動画を作成し随時公開しています。



会社の概要

(平成30年3月31日現在)

| | |
|-------|---|
| 社名 | イサム塗料株式会社 |
| 英文社名 | Isamu Paint Co., Ltd. |
| 設立年月 | 昭和22年7月 |
| 資本金 | 12億9,040万円 |
| 従業員数 | 192名 |
| 事業内容 | 塗料、塗装用機械器具の製造販売および 塗装工事請負 |
| 本社 | 〒553-0002 大阪市福島区鷺洲二丁目15番24号 電話 06-6458-0036 |
| 事業所 | 滋賀工場 営業企画部 東京支店 大阪支店 名古屋支店 福岡支店 仙台出張所 札幌駐在所 広島駐在所 |
| 連結子会社 | イサムエアーゾール工業株式会社 明勇色彩株式会社 イサム土地建物株式会社 進勇商事株式会社 |

役員状況

(平成30年6月28日現在)

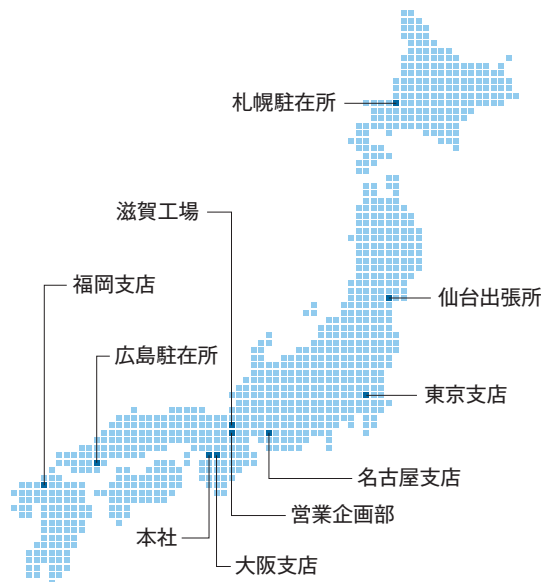
| | | | |
|--------|-------|--------|-------|
| 取締役社長 | 古川 雅一 | 常勤監査役 | 横江 喜夫 |
| 常務取締役 | 北村 倍章 | ※2 監査役 | 澤田 直樹 |
| 取締役 | 佐藤 貢 | ※2 監査役 | 樫元 雄生 |
| 取締役 | 岩倉 伸介 | | |
| ※1 取締役 | 太田 聡男 | | |

※1. 会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
 ※2. 会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

会計監査人

清稜監査法人

ネットワーク



■ 詳しいIR情報は、ホームページでご覧いただけます。

<http://www.isamu.co.jp/>



株主・投資家の皆様へ

株式の状況

(平成30年3月31日現在)

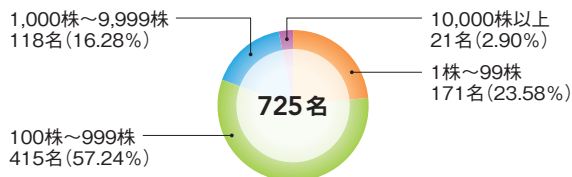
| | |
|----------|----------------------------------|
| 発行可能株式総数 | 9,600,000株 |
| 発行済株式の総数 | 2,400,000株 (自己株式493,140株を含む。) |
| 株主数 | 725名 |
| 単元株式数 | 100株 |

大株主の状況 (上位10名)

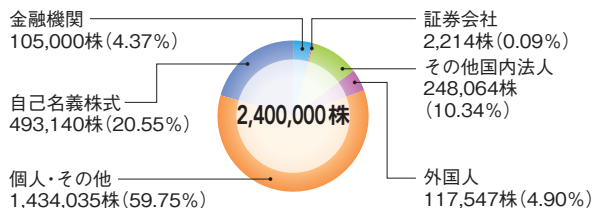
| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|--|---------|---------|
| 北村初美 | 443 | 23.24 |
| 北村健 | 442 | 23.18 |
| イサム塗料栄勇会 | 247 | 12.99 |
| 第一生命保険株式会社 | 93 | 4.89 |
| 長瀬産業株式会社 | 36 | 1.88 |
| イサム塗料従業員持株会 | 32 | 1.69 |
| 石原産業株式会社 | 24 | 1.25 |
| 株式会社ダイセル | 21 | 1.13 |
| BBH FOR FIDELITY PURITAN TR:FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND | 18 | 0.98 |
| THE BANK OF NEW YORK, NON-TREATY JASDEC ACCOUNT | 16 | 0.87 |

(注) 1. 当社は、自己株式を493,140株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有株式数別株主分布状況



所有者別株式分布状況



株主メモ

| | |
|-----------------------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 6月 |
| 株主確定基準日 | 定時株主総会・期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 |
| 公告方法 | 電子公告 http://www.isamu.co.jp/ir/notification |
| 株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 郵便物ご送付先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 |
| お問い合わせ先 | ☎0120-094-777 (通話料無料) (受付時間: 土・日・祝祭日を除く平日9:00~17:00) |
| ホームページURL | https://www.tr.mufg.jp/daikou/ |

【ご案内】

- 単元未満株式の買増制度について
単元未満株式(100株未満の株式)をご所有の株主様は、お手元の単元未満株式を1単元(100株)となるよう買増し請求することができます。
また、単元未満株式について買取り請求することもできます。
- 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。